

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立敷島北小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部分」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語の平均正答率は全国とほぼ同程度であり一定の定着が見られます。特に「我が国の言語文化に関する事項」においては高い定着が見られます。日常的に読書に親しんでいることが成果として表れています。一方で「話すこと・聞くこと」については、目的や意図に応じて伝え合う内容を検討したり、自分の考えが伝わるように表現を工夫したりすることに課題が見られます。
- ・算数の平均正答率は全国よりやや低く、いくつかの課題が見られます。特に「変化と関係」においては、速さの意味や時間や道のりとの関係を考察することに課題があります。一方で、「データの活用」では、円グラフの特徴を理解し、割合を読み読み取る問題で全国平均を上回る成果が見られました。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目
「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」「朝食を毎日食べていますか」「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか」について高い数値を示しています。
- ・課題となる項目
「自分には、よいところがあると思いますか」や「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」といった項目で低い数値が見られます。また、学校以外での「ICT機器活用」に関する数値も低い傾向があります。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・自己有用感を育むために、自己肯定感が低い児童に対して、互いに認め合える全校的な取り組みや授業を実施します。
- ・一人一台端末を一般的な教材や教具として自然に活用できるように、家庭学習や連絡ツールとして積極的に使用していきます。
- ・国語においては、日常的に相手を意識しながら言語を使って自分の考えや思いを伝え合う場面を授業や活動に多く取り入れて、対話的な深い学びを目指します。また、自分の考えをよりわかりやすく伝えられるように、表現力を豊かにするための授業を実施します。
- ・算数においては、学習内容の確かな理解につなげるため、具体的な操作活動を重視するとともに、自分の考えを言葉や数、式を使って分かりやすく表現する場面を授業に多く取り入れます。式や言葉を効果的に使って説明する力を育成できるよう、今後も継続して指導していきます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・各学年の「家庭学習の手引き」や山梨県の「学びの改善八か条」を活用し、励ましの言葉をかけながら、基礎学力の定着に向けた家庭学習の習慣化にご協力ください。
- ・ゲームやスマートフォンでSNSや動画の視聴などの時間が多い児童が見られます。時間やルールを守って適切に使用するようにしましょう。